

令和2年度  
岩手県  
NPO等の「絆力（きずなりよく）」を活かした  
復興・被災者支援事業  
評価報告書

都道府県担当部局	(窓口) 環境生活部若者女性協働推進室 担当者氏名 鈴木 まり子 電話番号 019-629-5198 メールアドレス <a href="mailto:ac0006@pref.iwate.lg.jp">ac0006@pref.iwate.lg.jp</a>
----------	---

1. 事業の成果目標の達成状況

番号	成果目標		達成状況	
	項目	目標（値）	達成状況	達成状況に関する説明等
1	補助金により支援するNPO等が行う復興・被災者支援事業への参加団体数	14 団体	11 団体	被災地におけるソフト事業（心のケア、コミュニティ形成）には依然としてニーズがあるものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により応募団体数が減となったもの。
2	復興・被災者支援による受益者の取組に関する満足度についてのアンケート集計結果において、「どちらかといえば改善した」以上の割合	80%	82%	被災者及び被災地のニーズを的確に捉えて各NPO等が事業に取り組み、高い満足度が得られたもの。
3	首都圏・交流会参加団体数	8 団体	10 団体	オンラインを活用した交流会を行い、被災地への継続的な支援について理解を得て、首都圏をはじめとする企業等の参加を多数得られたもの。

（備考）成果目標は事業実施計画において定めた内容と整合を取ってください。

## 2. 事業実施結果

### 2-1. 総括表

交付対象事業		事業費 (円)	国費 (円)	県費等 (円)	「1. 事業の成果目標」との対応(番号)	
県が実施した事業内容 (名称と実施主体)						
(1) NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組支援	①被災者の心のケア、健康・生活支援に向けた取組	(名称) 東日本大震災文化芸術復興事業「三陸沿岸キッズミュージカル」交流事業“2021” (実施主体) 特定非営利活動法人劇団ゆう	5,077,937	3,385,291	1,692,646 (555,937)	1, 2
		(名称) 被災地におけるデジタルマ育成による豊かな暮らしや働き方の実現 (実施主体) 一般社団法人トナリノ	4,223,203	2,815,468	1,407,735 (431,203)	1, 2
		(名称) 農業を通じた世代も境遇も超えた地域コミュニティ作り事業 (実施主体) 特定非営利活動法人 LAMP	2,982,850	1,988,566	994,284 (298,850)	1, 2
		(名称) 手芸を通じ被災地の心の復興を目指すコミュニティ自立への支援事業 (実施主体) 特定非営利活動法人遠野山・里・暮らしネットワーク	2,913,754	1,942,502	971,252 (393,754)	1, 2
		(名称) 大船渡駅周辺被災地域におけるコミュニティ再構築事業 (実施主体) 特定非営利活動法人おおふなと市民活動センター	1,481,889	987,926	493,963 (148,889)	1, 2
		(名称) 豊かな海と防災プロジェクト (実施主体) LOVE 大船渡プロジェクト実行委員会	609,200	406,133	203,067 (69,200)	1, 2
	②コミュニティ形成等の復興に向けた取組	(名称) 映像文化によるコミュニティ形成事業 (実施主体) みやこ映画生活協同組合	4,674,656	3,116,437	1,558,219 (474,656)	1, 2
		(名称) 大槌町子育て世代の継続的支援体制の構築事業 (実施主体) 一般社団法人 Tsubomi	2,959,195	1,972,796	986,399 (381,195)	1, 2
		(名称) 文化芸術による新たなコミュニティ形成事業 (実施主体) 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター	4,657,429	3,104,952	1,552,477 (466,429)	1, 2
		(名称) 三陸地域における移住と関係人口の調査・分析作業 (実施主体) 特定非営利活動法人 SET	3,285,290	2,190,193	1,095,097 (440,115)	1, 2
	④中間支援の取組	(名称) 復興支援 NPO なんでも出前相談会 (実施主体) 特定非営利活動法人シニアパワーいわて	635,625	423,750	211,875 (63,625)	1, 2
	小計 (a)		33,501,028	22,334,014	11,167,014 (3,723,853)	

※ 県費等欄中の下段 ( ) 内は、取組実施主体負担額

	交付対象事業	事業費 (円)	国費 (円)	県費 (円)	「1. 事業の 成果目標」 との対応 (番号)
	県が実施した事業内容 (名称と実施主体 (委託先))				
〇等の 絆力強化 (2)復興・被災者支援を行うNP	(名称) 首都圏交流会 (実施主体 (委託先)) 特定非営利活動法人 いわて連携復興センター	2,992,580	1,995,053	997,527	3
	(名称) 審査委員会等運営事業 (実施主体 (委託先)) 直営	2,407,825	1,605,216	802,609	1、3
	小計 (b)	5,400,405	3,600,269	1,800,136	

合計 (a+b)	事業費 (円)	国費 (円)	県費 (円)	取組実施 主体 (円)
		38,901,433	25,934,283	9,243,297

(備考)「県が実施した事業内容」は、実施した事業について全て記載してください。

## 2-2. 各事業の成果

### (1) NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組支援

整理番号	(1) - 1																						
事業名	東日本大震災文化芸術復興事業「三陸沿岸キッズミュージカル」交流事業 “2021”																						
取組実施 主体と役 割分担	特定非営利活動法人劇団ゆう																						
事業概要	文化芸術の復興と被災者支援として、被災した沿岸の地方自治体と協働で 全域から140名の児童・生徒や地域住民を募集し、世代を超えた住民参加 型のミュージカル制作を沿岸北部・中部・南部各エリアで実施、盛岡広域圏 内の劇団ゆう45名を加えた成果公演をする。また市民ボランティアの拡大 と各エリアの相互交流を促進し沿岸全域の「絆力」の強化拡充を図る。																						
事業費と その内訳	<table> <tr> <td>【総事業費】</td> <td>5,077,937円</td> </tr> <tr> <td>【経費内訳】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>諸謝金</td> <td>666,768円</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>294,000円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>388,331円</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>241,324円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>11,358円</td> </tr> <tr> <td>使用料及び会場借料</td> <td>604,650円</td> </tr> <tr> <td>募集広告料</td> <td>123,750円</td> </tr> <tr> <td>委託費</td> <td>2,738,736円</td> </tr> <tr> <td>その他知事が必要と認める経費</td> <td>9,020円</td> </tr> </table>	【総事業費】	5,077,937円	【経費内訳】		諸謝金	666,768円	旅費	294,000円	消耗品費	388,331円	印刷製本費	241,324円	通信運搬費	11,358円	使用料及び会場借料	604,650円	募集広告料	123,750円	委託費	2,738,736円	その他知事が必要と認める経費	9,020円
【総事業費】	5,077,937円																						
【経費内訳】																							
諸謝金	666,768円																						
旅費	294,000円																						
消耗品費	388,331円																						
印刷製本費	241,324円																						
通信運搬費	11,358円																						
使用料及び会場借料	604,650円																						
募集広告料	123,750円																						
委託費	2,738,736円																						
その他知事が必要と認める経費	9,020円																						

<p>事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】</p> <p>復興・被災者支援による受益者の取組みに対するアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合</p> <p>県目標値：80%→本事業 81.1%</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>1 各エリア内の活動が充実する。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大が心配されるなか、多くの地域住民が公演を観劇して下さったことは、継続した活動の成果と思われる。</p> <p>2 沿岸エリア相互の信頼と連携が進む</p> <p>① 各エリアの自治体担当職員相互の信頼関係が年々構築されつつあることと、今年各エリア公演には相互出演はなかったが、自治体職員に引率された他エリアの児童・生徒やその家族が自主的に観劇に訪れたことは、三陸沿岸200キロ交流の機会の創出に繋がった。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、事業を中止した北部エリアの応募者1名が中部エリア、南部エリアの公演に出演された。</p>
<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>自立を目指す文化芸術活動の担い手を育成するために、参加者の意欲の向上、行政の理解と支援、家族や地域住民の理解と応援のあり方が整いつつあるため、各エリアの実情に併せた自立支援活動を推進する。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <p>-----</p> <p>(上記評価の理由)</p> <p>計画目標達成項目割合は71%、受益者アンケート結果が81.1%であることから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) - 2																		
事業名	被災地におけるデジタルママ育成による豊かな暮らしや働き方の実現																		
取組実施主体と役割分担	一般社団法人トナリノ																		
事業概要	<p>本事業は被災した子育て女性に対し、ICT を活用した学びと地域参加の機会提供（＝デジタルママの育成）をすることで「地域：復興を担う人材の発掘、育成ができる」「子育て女性：生活や仕事の選択肢が増え、自信がつき、日々の暮らしが豊かになる」ことを、子育て女性が自ら実現することを目指す事業である。</p>																		
事業費とその内訳	<table> <tr> <td>【総事業費】</td> <td>4, 223, 203 円</td> </tr> <tr> <td>【経費内訳】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>2, 958, 454 円</td> </tr> <tr> <td>諸謝金</td> <td>457, 600 円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>23, 429 円</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>98, 730 円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>1, 540 円</td> </tr> <tr> <td>使用料・会場借料</td> <td>23, 450 円</td> </tr> <tr> <td>委託料</td> <td>660, 000 円</td> </tr> </table>	【総事業費】	4, 223, 203 円	【経費内訳】		人件費	2, 958, 454 円	諸謝金	457, 600 円	消耗品費	23, 429 円	印刷製本費	98, 730 円	通信運搬費	1, 540 円	使用料・会場借料	23, 450 円	委託料	660, 000 円
【総事業費】	4, 223, 203 円																		
【経費内訳】																			
人件費	2, 958, 454 円																		
諸謝金	457, 600 円																		
消耗品費	23, 429 円																		
印刷製本費	98, 730 円																		
通信運搬費	1, 540 円																		
使用料・会場借料	23, 450 円																		
委託料	660, 000 円																		
事業の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <p>復興・被災者支援による受益者の取組みに対するアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合</p> <p>県目標値：80%→ 83.1%</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>コミュニティの形成はもとより、参加者が当事業をきっかけに自ら教室を開催するなど、女性の主体的な社会参加および自己実現のきっかけとなった。</p> <p>参加者は、フリーランスのライターという仕事を選択できるようになった。</p>																		

<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>本事業の自己負担分の資金については、子育て女性による情報発信や事務局業務の受注、また、本事業の成果による信頼資本の増加によって、さまざまな案件受注及び財源獲得の可能性が高まるため、それらを充当する。</p> <p>④財源の獲得</p> <p>昨年度から継続して、直接と間接財源の獲得をさらに強化する。まず直接財源としては、子育て女性の人的資源を活用し、事業者、NPO、行政等から情報発信や事務局業務の受注をさらに進める。また、多分野で活動する法人の強みを活かし、小さな仕事(ペットシッターや草刈りなどのマイクロタスク)の受注を幅広く進め、地域の困りごとを解決しながら自主財源を獲得していく。</p> <p>次に間接財源として、子育て女性を支援することでの信頼資本の増加によって、さまざまな案件受注、財源獲得が見込める。本事業は子育て女性からの賛同を広く得る事業であるため、その家族や近親者にも良き評判が口コミで広がり、やがては地域における高く厚い信頼を得ることが予測される。そのため「あのNPOなら信頼できる」という理由で各種案件を相談、受注することが増え、結果自主財源の獲得につながる。さらに、地域における協力・支援者が増えるため、物や場の無償提供を受けたり、ボランティアの参加が増え、支出削減にもつながる。かつ、子育てサイトとママライターによって、広く地域や社会に情報発信されることで、認知と賛同が加速度的に進んでいくことも、良き影響につながっていく。</p> <p>最後に寄附財源として、本事業の公益性が高く、理解を得やすいことを活かし、ふるさと納税、特に企業版ふるさと納税からの事業費一部補助や委託を進める。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A : 特に優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B : 優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> C : 一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D : 限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E : 成果が得られなかった</p> <p>(上記評価の理由)</p> <p>計画目標達成項目割合及び受益者アンケート結果が良好であることから、「優れた成果が得られた」と評価する。</p>



整理番号	(1) - 3
事業名	農業を通じた世代も境遇も超えた地域コミュニティ作り事業
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人 LAMP
事業概要	本事業では、震災によって働く場や社会参加の機会が失われ、課題が顕著となった「社会的弱者」と呼ばれる障がい者や無業の若者の社会参画や、高齢者の生きがいつくりへの課題を解決するために、各支援団体とのネットワークを構築し、農業を通じて世代も境遇も超えた支え合う地域コミュニティづくりに取り組む。
事業費とその内訳	<p>【総事業費】 2,982,850 円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 2,694,389 円</p> <p>旅費 35,300 円</p> <p>消耗品費 32,590 円</p> <p>使用料及び会場使用料 163,020 円</p> <p>委託費 57,551 円</p>
事業の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <p>復興・被災者支援による受益者の取組みに対するアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合</p> <p>県目標値：80%→68.9%</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>りんご農園での作業を通じて、「就労」を意識し始めた対象者もいたことから、社会参画へのきっかけの提供にはつながったと考えられる。</p> <p>NPO 法人ワーカーズコープで農園に来た高齢者は、暖かい日には屋外での活動を望んでいるが、なかなか機会に恵まれず、今回貴重な機会だったということで今後も継続して機会があれば農園に行きたいと話していた。</p>
事業実施年度以降の方針	<p>陸前高田ユニバーサル就労支援センターからりんご農園での就労を希望する声もあり、今後は「体験」ではなく、賃金も発生させ「仕事」として作業に携わってもらえる環境を整え、資金の確保もしていく。そのために、令和3年度には休眠預金を活用した助成金を確保し、キャッシュフローワークを実施していく。</p> <p>NPO 法人ワーカーズコープは、デイサービス利用者と一緒に農作業ができる野菜農園作りを考えているとのことから、互いの事務所があるたまご村に</p>

	<p>隣接する空き地に、農業交流施設の整備及び共同で農園作り計画を進めていく。交流施設や農園作りには地方創生交付金を活用し、施設で加工品の製造販売にも取り組み、陸前高田ユニバーサル就労支援センターの利用者など、地域から新たな雇用を創出する。また、<u>野菜や加工品なども販売し、施設や農園の運営管理資金とする。</u></p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「世代も境遇も超えた交流」に係る事業が見送りとなったが、一方で、各支援団体のネットワーク構築においては成果が得られたことから、「限定的ではあるが成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) - 4																						
事業名	手芸を通じ被災地の心の復興を目指すコミュニティ自立への支援事業																						
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人遠野山・里・暮らしネットワーク																						
事業概要	当法人は今まで、大槌町、陸前高田市で心のケアなどコミュニティの活性化など広範なネットワークを形成してきた。しかし、課題は山積しており、新たな活動が求められる。本事業は、新たに県産羊に着目、またコロナ対策に配慮した手芸を通じ、より広範で強固なコミュニティ形成と自立を目指す事業とする。																						
事業費とその内訳	<table border="0"> <tr> <td>【総事業費】</td> <td>2,913,754 円</td> </tr> <tr> <td>【経費内訳】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>1,760,535 円</td> </tr> <tr> <td>諸謝金</td> <td>285,300 円</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>98,000 円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>629,928 円</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>8,420 円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>1,624 円</td> </tr> <tr> <td>使用料及び会場借料</td> <td>43,672 円</td> </tr> <tr> <td>委託費</td> <td>64,165 円</td> </tr> <tr> <td>その他知事が必要と認める経費</td> <td>22,110 円</td> </tr> </table>	【総事業費】	2,913,754 円	【経費内訳】		人件費	1,760,535 円	諸謝金	285,300 円	旅費	98,000 円	消耗品費	629,928 円	印刷製本費	8,420 円	通信運搬費	1,624 円	使用料及び会場借料	43,672 円	委託費	64,165 円	その他知事が必要と認める経費	22,110 円
【総事業費】	2,913,754 円																						
【経費内訳】																							
人件費	1,760,535 円																						
諸謝金	285,300 円																						
旅費	98,000 円																						
消耗品費	629,928 円																						
印刷製本費	8,420 円																						
通信運搬費	1,624 円																						
使用料及び会場借料	43,672 円																						
委託費	64,165 円																						
その他知事が必要と認める経費	22,110 円																						
事業の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <p>復興・被災者支援による受益者の取組みに対するアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合  県目標値：80%→本事業 81%</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>復興団地の入居まもなく、自室に閉じこもりがちであったところに、新型コロナウイルスの感染拡大により、ますます住民同士の交流が困難な状況となったが、事業協力団体との協働により、手芸講習を通じた交流の機会を創出できた。また、多くの発表会が中止される中、作品の披露の場を設けられたことは参加者の喜びとなった。</p>																						

<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>震災後 10 年が経過したが、まだまだ心のケアやコミュニティ活動の活性化に向けた支援が必要であり、様々な機会を捉えて支援を継続する。</p> <p>住民同士の交流を図る上では女性の役割が大きく、手芸講習は大切な機会となった。域内での講師が見つかったことから、参加費を負担いただくことで講習会の開催は可能であり、開催に向けた支援を継続する。</p> <p>また、希望する者には「東北クロッシェ村」を紹介するなど、就労の機会を提供していきたい。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A : 特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B : 優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C : 一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D : 限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E : 成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>計画目標達成項目数が低いが、受益者アンケート結果が 81% と高評価であることから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) - 5
事業名	大船渡駅周辺被災地域におけるコミュニティ再構築事業
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人おおふなと市民活動センター
事業概要	東日本大震災によりコミュニティを分断された大船渡町の住民、災害公営住宅などに住む住民を対象に、相互理解を育むことができるようなテーマ型のイベントを提供し、新たなコミュニティを新たな街の中心地であるキャッセン大船渡エリアで作る。
事業費とその内訳	<p>【総事業費】 1,481,889 円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 1,210,246 円</p> <p>諸謝金 172,800 円</p> <p>旅費 7,380 円</p> <p>消耗品費 7,643 円</p> <p>印刷製本費 27,170 円</p> <p>会場借料 56,650 円</p>
事業の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <p>復興・被災者支援による受益者の取組みに対するアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合</p> <p>県目標値：80%→本事業 66.4%</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>合計の参加人数の目標値は360人であったが、健康体操教室、交流ワークショップ、合せて320人と目標値には満たなかった。</p> <p>その中で、新たな知り合いができた人数40人、体が動きやすくなった人数30人という目標値も設定していたが、実人数は15人で、目標値としては達成できなかったが、中盤からメンバーが固定化されてきたことにより、より繋がりの濃いコミュニティとなったと言える。実際にイベント実施時には、参加者同士が声を掛け合って参加するなど、イベントの時だけその場で会う関係というよりは、日常の中でもコミュニケーションを取るといった関係性ができた方もいた。</p>

<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>※本事業の成果を踏まえた補助事業終了後の活動計画について記載          ※自己負担とする資金の調達方法及び事業実施年度以降本事業を受けなくとも取組を継続させるために必要な資金調達方法を、助成金、寄付金等の手段別に具体的に記載</p> <p>参加者のニーズとして、「これからも続けていきたい」「参加費を払うことも可」「講師は今のままがいい」など、同じスタイルでの事業継続が望まれたこともあり、株式会社キャッセン大船渡との協議の基 4 月以降は参加費をいただきながらキャッセン大船渡主体で事業を実施していくということになった。毎月 2 回、さんりく WELLNESS の熊谷侑希さんを講師として招いて体操教室を実施していく。今後は株式会社キャッセン大船渡が主体となって実施するため、コロナ禍で参加人数は限られるが、可能な範囲で参加人数が増えていくよう広報などのサポートを続けていくことでコミュニティの輪を広げていきたい。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A : 特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B : 優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C : 一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D : 限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E : 成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>計画目標達成項目割合は 75%、受益者アンケート結果が 66.4%であることから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) - 6
事業名	豊かな海と防災プロジェクト
取組実施主体と役割分担	LOVE 大船渡プロジェクト実行委員会
事業概要	<p>1 漁火イルミネーション</p> <p>浮き明かりを利用して大船渡駅前を中心にライトアップを開催した。海を模倣したイルミネーションから海への愛着と、復興からの活力となり明るく照らす地域資源を創出する。大船渡海を愛する会の協力を受け、コロナに負けない大船渡などのメッセージを流す電飾も設置して開催した。</p> <p>・実施概要</p> <p>会場：大船渡市防災観光交流センター広場</p> <p>開催日時：R2年12月12日(土)～R3年1月11日(月)16:30～22:00</p> <p>協力：大船渡海を愛する会(インネルイルミネーション設営)</p> <p>来場者数：15人/日(平均) 延べ人数：300人</p> <p>2 須崎川浮き球流しイルミネーション</p> <p>東日本大震災から10年目を迎える3月11日に合わせ、鎮魂の意を込めた浮き球流しを開催した。街の中心地にあたり、市民が親しみやすいよう整備された須崎川で浮き球を灯すことで、復興と今後を考える機会を創出する。震災10年に合わせ近隣施設とも連携した震災イベントで多くの人々が交流し思い出をかたる機会となった。</p> <p>・実施概要</p> <p>会場：2級河川須崎川</p> <p>開催日時：R3年3月11日(木)14:00～22:00</p> <p>協力：キャッセン大船渡(事業告知)</p> <p>来場者数：300人</p>
事業費とその内訳	<p>総事業費：609,200円</p> <p>収入の部</p> <p>補助金：540,000円、自己負担69,200円</p> <p>支出の部</p> <p>・漁火イルミネーション 389,200円</p> <p>会場借料：81,200円、業務委託費：308,000円</p> <p>・浮き球流しイルミネーション 業務委託費：220,000円</p>

<p>事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】 復興・被災者支援による受益者の取組みに対するアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値：80%→本事業 47.4%</p> <p>【波及的な効果】 漁火イルミネーション設営協力・支援者数 20 名以上 成果：運営協力者数：10 名 須崎川浮き球流しイルミネーション設営協力・支援者数 10 名 成果：設営協力者数：3 名 告知協力：1 名</p>
<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>次年度も浮き球や漁具を利用した海に関連する事業を開催予定だが、本年から事業規模や予算を縮小し活動を行う予定。新型コロナの状況や震災からの節目を迎えた地域状況を見ながら海への愛着と地域活性化の活動を継続して行っていく。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、規模を縮小して開催したことから、受益者アンケート結果が 47.4%ではあったが、計画目標達成項目割合が 50%であるため、「限定的であるが成果が得られた」と評価する。</p>

(備考) 総括表に記載された全ての実施事業について、1 件当たり 2 枚分以内で記載してください。



整理番号	(1) - 7
事業名	映像文化によるコミュニティ形成事業
取組実施 主体と役 割分担	みやこ映画生活協同組合
事業概要	<p>1 映画・映像文化による心のケアと交流の場づくりからコミュニティ形成と次世代上映者育成を目的とした取組を行う。</p> <p>2 上映者育成ワークショップを実施し、受講生を中心に企画した映画上映会を実施する。</p> <p>3 子ども達(学生)が企画し運営する体験上映会を実施する。</p> <p>4 被災地上映会と交流サロンを実施する。</p> <p>5 地域住民全体及び近隣の地域も対象にした地域映像祭を実施する。</p>
事業費と その内訳	<p>【総事業費】 4,674,656 円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 1,830,536 円</p> <p>諸謝金 257,955 円</p> <p>旅費 143,175 円</p> <p>消耗品費 105,620 円</p> <p>印刷製本費 223,049 円</p> <p>通信運搬費 50,636 円</p> <p>使用料及び会場借料 1,938,570 円</p> <p>募集広告費 103,115 円</p> <p>その他 22,000 円</p>

<p>事業の 成果</p>	<p><b>【成果目標の達成状況】</b> 復興・被災者支援による受益者の取組みに対するアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値：80%→86.9%</p> <p><b>【波及的な効果】</b></p> <p>1 上映者育成ワークショップと企画上映会 ・受講生の中から実際に自分たちで企画した地域上映企画が動き出した。</p> <p>2 子ども(学生)体験上映会 ・子ども達が地域の大人と触れあうことで、地域に愛着を持つことができた。映画、映像に関わる仕事に興味を持ってもらうことで、将来の職業選択の一助になった。</p> <p>3 被災地上映会と交流サロン活動 ・参加者全員で上映作品の選定をすることで昔見た映画についての会話が増え、公営住宅入居者と近隣住民など、交流の少なかった人達の交流の場となった。</p> <p>4 地域映像祭 ・他地域からの来場者もあり、その地域や岩手にゆかりのある映画を地域住民と一緒に鑑賞することで、課題や地域文化への理解、交流人口増にもつながった。</p> <p><b>【その他事業によって得られた成果等】</b> ・新型コロナの影響で、上映会の中止や参加者の減少が心配されたが、感染対策を実施したことで、外出を控えていた人たちも比較的安心して参加でき、皆で映画を楽しむことで心身の健康につながった。 ・被災地上映会でも、コロナ禍でなかなか外出できなかった人達が、上映会をきっかけに久しぶりに集まり、住民同士の近況報告や、自治会長や民生委員、社協の担当者達と生活面や健康面での情報交換なども行われ、思いがけない交流の場となった。</p>
<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>地域の方々が、自主的に上映会を開いて、地域交流につながるような活動ができるように引き続き上映者育成活動を行いたい。地域映像祭は、大変好評だったので、震災の風化防止にもつながるような映画の上映を県内で実施していない地域や、首都圏でも行いたい。</p> <p>資金調達方法は、目的にあった様々な助成金に応募して資金を調達する。また、参加料をいただく上映会を行いながら、助成金に応募して活用する。合わせて寄付金のお願いもしていく。</p>

<p style="text-align: center;"><b>評価</b></p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A : 特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B : 優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C : 一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D : 限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E : 成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>受益者アンケートは 86.9%と良好な結果であったが、計画達成項目割合は 40%であることから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>
--	---

整理番号	(1) - 8
事業名	地域の協働・連携による子育て世代への持続可能な支援体制構築事業
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人 Tsubomi
事業概要	<p>1 子育て支援連携コーディネーターの設置</p> <p>(1) 支援機関訪問 計 39 件/年</p> <p>(2) 子育て支援会議開催回数 計 8 回/年</p> <p>(3) 子育て支援会議を通じて、支援者同士で考える子育て世代へのアンケート調査（大槌庁内の保育園、子ども園に在籍する年少から年長までの保護者を対象に実施） 計 186 件</p> <p>2 地域の親子の居場所づくりを目的としたサロンの開催</p> <p>参加者のニーズを聞きながら、ペタペタアート教室、ヨガ教室、親子スポーツ教室、リズム遊び、季節の行事等を実施</p> <p>実施回数 計 30 回/年</p> <p>参加人数（延べ）247 名</p> <p>3 子育て相談支援窓口の設置</p> <p>相談件数 計 72 件</p>
事業費とその内訳	<p>【総事業費】 2,959,195 円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 2,476,104 円</p> <p>諸謝金 168,528 円</p> <p>旅費交通費 54,500 円</p> <p>消耗品 231,363 円</p> <p>会場費 28,700 円</p>

<p>事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】 復興・被災者支援による受益者の取組みに対するアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値：80%→本事業 84.9%</p> <p>【波及的な効果】 ①相談窓口の開設について、各機関にお知らせし、相談者が共通する子育て支援センター等については、互いの利用状況等の情報を共有することができた。 ②子どもの食事に関する悩みを共有する場を設定し、また、専門家に直接相談することで、課題解決につなげることができた。</p>
<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>今年度の実施状況によりサロンの負担額の見直し等をおこないつつ、助成金・補助金へのエントリーは継続し、さらに企業から寄付金を募るなどして、事業の継続を目指す。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>受益者アンケートは 84.9%と良好な結果であるが、計画達成項目割合は 71%であることから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

(備考) 総括表に記載された全ての実施事業について、1件当たり2枚分以内で記載してください。

整理番号	(1) - 9
事業名	文化芸術による新たなコミュニティ形成事業
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
事業概要	<p>1 市民参加の舞台振興と持続可能なコミュニティ形成活動</p> <p>(1) 陸前高田及び宮古での市民劇演目探しワークショップ (継続発展)</p> <p>(2) みやこ市民劇の専門的スキルアップ支援 (継続発展)</p> <p>2 地域・世代の交流と次世代を育む活動</p> <p>(1) 復興支援コンサートの開催 (新規)</p> <p>(2) 美術交流展「エニナルフルサト」の開催 (新規)</p> <p>3 被災地・被災者からの思いを伝え語り継ぐ活動</p> <p>(1) 震災小説の募集 (継続発展)</p> <p>(2) 朗読劇の作品作りと公演の実施 (新規)</p> <p>4 広く深く学び、コミュニティ (社会) に還元する活動</p> <p>(1) 沿岸被災地における文化芸術活動の配信 (新規)</p> <p>(2) ジャズ鑑賞講座 (新規)</p> <p>5 文化による支援を啓発する活動</p> <p>(1) 文化復興支援フォーラム (3月7日) の開催 (継続発展)</p> <p>(2) 文化復興の状況と課題、今後への提言をまとめた提言書 (沿岸被災地における文化芸術活動者10人の10年の思い) の発行 (継続発展)</p> <p>6 その他上記 (1) ~ (5) の活動を支える活動</p> <p>(1) 運営会議 (継続発展)</p> <p>(2) ワンコイン募金 (継続発展)</p>
事業費とその内訳	<p>【総事業費】 4,657,429 円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 2,956,514 円</p> <p>諸謝金 525,200 円</p> <p>旅費 226,918 円</p> <p>消耗品費 43,434 円</p> <p>印刷製本費 526,220 円</p> <p>通信運搬費 111,167 円</p> <p>使用料及び会場借料 178,676 円</p> <p>募集広告費 660 円</p>

	<p>委託費 70,400 円</p> <p>その他 18,240 円</p>
事業の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <p>復興・被災者支援による受益者の取組みに対するアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合</p> <p>県目標値：80%→本事業 100%</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>1 震災小説の募集は、県外から「読みたい」という問い合わせが複数あり、希望者に送付した。また、県内外の図書館や文化関係団体へ広く配布し、被災地からの思いを風化させず語り継ぐことに寄与できた。</p> <p>2 文化復興支援フォーラムはコロナ感染拡大防止のため例年より減席しての開催となったが、新聞・テレビによる詳細な報道により、沿岸被災地の現状に対する市民理解の促進に繋がった。また、本年度の提言書には「現地の声～震災から10年を経た今の思いと次の10年への期待～」と題して沿岸被災地の文化関係者10名からの原稿を掲載した。この提言書は全国各地に配布され、被災地からの思いが広く伝播した。</p>
事業実施年度以降の方針	<p>持続可能な活動とするための資金調達については、これまで避けていた受益者負担を、入場料や参加費として徐々に定着させるほか、各種メセナ資金やクラウドファンディング、他の公的助成との組み合わせによる実施を検討する。また、県及び市町村事業として継続できるものについては、協働による活動の継続に向け協議していきたい。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <p>(上記評価の理由)</p> <p>受益者アンケートは100.0%と良好な結果であるが、計画達成項目割合は57%であることから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) -10
事業名	三陸地域における移住と関係人口の調査・分析作業
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人 SET
事業概要	<p>1 地域住民とのまちづくり勉強会</p> <p>10月17日第0回(お試し回)地域の学び舎 SDGsに関する勉強会 7名参加</p> <p>11月14日 第1回地域の学び舎 気仙管内での新型コロナウイルス感染確認のため中止</p> <p>11月21日 第2回地域の学び舎 地域経済循環についての勉強会 7名参加</p> <p>12月16日 第3回地域の学び舎 SDGsに関する勉強会 参加者6名</p> <p>1月24日 第4回地域の学び舎 環境保全や景観保全に関する勉強会 7名参加</p> <p>1月31日 第5回地域の学び舎 地産地消に関する勉強会 5名参加</p> <p>2 まちづくりに関する意見書や役割分担を進める「町を語る会」の実施 新型コロナウイルスの岩手県内、沿岸地域での感染拡大のため中止</p> <p>3 住民主体のまちづくり活動におけるノウハウ・モデルの検証とノウハウ・情報共有のための冊子作成、送付</p> <p>2月 ヒアリング調査などの実施</p> <p>3月10日 冊子完成、3月15日 沿岸地域団体への冊子の発送</p>
事業費とその内訳	<p>【総事業費】 3,285,290円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 1,623,530円</p> <p>諸謝金 448,115円</p> <p>印刷製本費 38,245円</p> <p>通信運搬費 46,800円</p> <p>募集広告費 16,500円</p> <p>委託費 1,111,000円</p> <p>その他知事が必要と認める経費 1,100円</p>



<p>事業の 成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】 復興・被災者支援による受益者の取組みに対するアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値：80%→本事業 75.2%</p> <p>【波及的な効果】 地域住民同士の学び合いにより、「地域を持続可能にするためにどのような取り組みができるか？」という視点から出てきたアイデアにより生協をモデルにした地域内での流通の取り組みが新たに開始した。まだトライアル段階であるが、地産地消や地域経済循環率、また梱包にはできるだけプラスチックフィルムを使わないなどの環境に配慮された取り組みとなっている。</p>
<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>資金調達方法</p> <p>(1) 自己負担とする資金の調達方法 自主事業、及び、寄付から成る自主財源を活用。(100万円程度を運用)</p> <p>(2) 継続的取り組みのための資金調達方法</p> <p>① 補助金・助成金 今回の取り組みを踏まえた研究助成への応募</p> <p>② その他収入 NPO、地域団体からの視察費、及び業務委託費等の受託(200万円程度を想定)</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>受益者アンケートが75.2%であるが、計画達成項目割合が75%であることから、「一定の成果が得られた」と評価する。</p>

整理番号	(1) -11
事業名	復興支援 NPO なんでも出前相談会
取組実施主体と役割分担	特定非営利活動法人シニアパワーいわて
事業概要	<p>1 本事業は、東日本大震災で被災した宮古・釜石・大船渡・陸前高田地区で活動する NPO 法人を対象に経理・総務・労務等の NPO 法人の事務方が抱える懸案事項について課題解決に向けて助言・指導を行うことを目的に開催するものである。</p> <p>2 さらに、今年度も前年度と同様に相談者が相談会場に来て相談に応じる方法と、相談を希望する NPO 法人の事務所などへ直接当方から出向いて相談に応じるという2つのパターンで行うものとする。</p>
事業費とその内訳	<p>【総事業費】 635,625 円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 360,000 円</p> <p>旅費 217,180 円</p> <p>消耗品費 31,169 円</p> <p>印刷製本費 8,800 円</p> <p>通信運搬費 9,826 円</p> <p>使用料及び会場借料 8,650 円</p>
事業の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <p>復興・被災者支援による受益者の取組みに対するアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合</p> <p>県目標値：80%→本事業 76.9%</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>1 当法人が進めている正しい NPO 会計基準による経理処理が普及してきている。</p> <p>2 役員改選の申請登記を行ったが法務局より書類の不備を指摘されそのまま放置していたので、後日当方から関係資料を送付し、これを元にして登記が完了した。</p> <p>3 コロナ関連の助成金情報の提供を行い、これに基づいて助成金を受領した。</p>

<p>事業実施 年度以降 の方針</p>	<p>1 東日本大震災後に設立された NPO 法人の経理、総務、労務等法人運営を陰から支える事務処理の支援を目的にこの出前相談会を開催してきたが、未だ NPO 法人は本来業務の運営で手いっぱい、後方事務の処理になかなか手が回らない、この出前相談会を頼りにしている団体が多い。この現実を見ればまだまだこの相談会を開催する意義はあると思われる。</p> <p>2 震災から 10 年が経ち、コロナ関連で相談会に来ることを恐れていたが、いずれ収束すればこの相談会を利用したいとするニーズはあると確信している。</p> <p>3 上記に記した通り、相談会の需要があるものの当法人が自己資金だけで運営するには財政的に無理があり、開催地の市町村の補助金やクラウドファンディングで実情を訴え来年度以降も開催する方法を模索することとする。</p>
<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A : 特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B : 優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C : 一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D : 限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E : 成果が得られなかった</p> <hr/> <p>(上記評価の理由)</p> <p>受益者アンケートが 76.9%であるが、計画達成項目割合が 67%であることから、「一定の成果が得られた」と評価する</p>

(2) 復興・被災者支援を行うNPO等の絆力強化

整理番号	(2) - 1
事業名	首都圏企業とNPOとの交流会
事業実施主体	<input type="checkbox"/> 県直営事業 <input checked="" type="checkbox"/> 委託事業（受託者：特定非営利活動法人 いわて連携復興センター）
支援対象者の概要	沿岸被災地において復興・被災者支援を行うNPO等
事業概要	<p>復興・被災者支援を行うNPO等と支援者等との絆力を強化するため、首都圏の企業や団体を対象として、県内NPO等の活動紹介や復興支援に連携・協働して取組むためのマッチングイベントを開催する。</p> <p>また、マッチングイベントに参加するNPO等の企画提案力を向上させ、寄附や助成金の獲得や連携・協働事業の実現のため専門家との交流会を開催する。</p>
事業費とその内訳	<p>【総事業費】 2,992,580 円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>旅費 1,500 円</p> <p>使用料及び会場使用料 2,380 円</p> <p>委託費 2,988,700 円</p>
事業の成果	<p>首都圏企業と県内NPO等との交流会及び交流会の事前準備としてのプレゼンテーション講座を以下のとおり実施した。</p> <p>1 首都圏企業と県内NPO等との交流会（マッチング交流会）          開催日及び場所：令和3年2月19日（金） 釜石PIT          参加団体：NPO等（10団体）、首都圏企業等（27社）</p> <p>2 プレゼンテーション講座          開催日及び場所：令和2年12月4日（月）釜石PIT（釜石市）          参加者数：NPO10団体</p> <p>3 マッチング成果          マッチング達成件数：6件、次年度継続件数：3件          県内NPOが実施するイベントに団体としての参加申込みがあった。</p>
評価	<p>NPO等の絆力強化に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <p>（上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください）</p>

	<p>(上記評価の理由)</p> <p>マッチング交流会では、オンラインを活用し、本県の復興状況やNPO等による復興支援活動の状況について首都圏企業に理解してもらうことができ、首都圏企業と県内NPOとの連携・協働を生み出す機会となった。</p> <p>東日本大震災から10年経過し、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でもなお、県内NPO等10団体、首都圏企業27社(29名)と一定の参加者を得て目標値を達成するとともに、マッチングを達成した件数が6件、情報共有等を行える体制の構築等の次年度継続件数が3件の成果があった。</p>
--	--

(備考) 総括表に記載された全ての実施事業について、1件当たり2枚以内で記載してください。

整理番号	(2) - 2
事業名	審査委員会等運営事業
事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 県直営事業 <input type="checkbox"/> 委託事業 (受託者:                    )
支援対象者の概要	補助事業及び委託事業の実施団体
事業概要	<p>NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組事業の選定及び復興・被災者支援を行うNPO等の絆力強化として、首都圏での交流会等の受託団体の選定を行う審査委員会を開催する。</p> <p>また、上記選定事業の評価及び指導・助言等を行う。</p> <p>1 審査委員会の名称 NPO等復興支援事業審査委員会 (委員数5名)</p> <p>2 開催実績 ・審査委員会: 2回 (うち1回は、県単独事業と同日に開催) ・現地指導: 2回 (大船渡市・陸前高田市、遠野市)</p> <p>3 備考 新型コロナ感染拡大防止のため、3月に予定していた審査委員会 (事業報告会) を中止し、活動報告書等のホームページ公開に変更。</p>
事業費とその内訳	<p>事業費の総額: 2,408,254円</p> <p>(内訳) 人件費: 2,255,725円、報償費: 38,400円、旅費: 26,340円、消耗品費: 50,225円、役務費: 25,274円、使用料: 12,290円</p>
事業の成果	<p>金融、NPO法人、学識経験者、行政等の専門家5名を審査委員として委嘱し、以下の事業を行った。</p> <p>1 補助事業及び委託団体の選定 ・NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組を行う補助事業11事業を選定 ・首都圏交流会等の受託団体の1団体を選定</p> <p>2 団体への指導・助言等 ・補助事業に取り組む団体の現地訪問による実施状況の確認及び事業への助言の実施 ・補助事業者の実績 (実績報告書及び成果報告書を送付) の評価及び助言の実施</p>

<p>評価</p> <p>(上段の該当する評価にチェックを付け、下段にその理由を記載してください)</p>	<p>NPO等の絆力強化に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A : 特に優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B : 優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> C : 一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D : 限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E : 成果が得られなかった</p>
	<p>(上記評価の理由)</p> <p>1 NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組支援において、補助金により支援するNPO等が行う復興・被災者支援事業への参加団体数は目標値を達成しており、適切な補助事業の選定を行うことができた。</p> <p>2 審査委員による現地確認において、委員から各団体に助言等を行うことにより補助事業の趣旨に沿った事業の展開が可能となり、受益者満足度が目標値である「どちらかといえば改善した」の割合80%以上を達成する等、高い事業成果を得ることができた。</p>

(備考) 総括表に記載された全ての実施事業について、1件当たり2枚以内で記載してください。

### 3. 審査委員会の開催結果

- (1) 審査委員会の名称  
NPO等復興支援事業審査委員会
- (2) 審査委員会の役割等  
審査委員会は設置要綱による設置とし、委員は知事が委嘱した。  
審査委員会所掌事務は、次のとおり。  
ア 復興支援事業の委託を受ける団体・組織からの提案の選定に関すること  
イ 復興支援事業のうち、NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組支援事業の選定に関すること  
ウ 復興支援事業の評価に関すること  
エ 復興支援事業の効果を高めるための指導・助言等に関すること  
オ その他NPO等への支援の検討に関すること
- (3) 審査委員会委員の構成  
日本政策金融公庫盛岡支店 国民生活事業融資第二課長 小原 禎宏  
岩手県立大学総合政策学部 教授 倉原 宗孝  
特定非営利活動法人ふれあいステーション・あい 理事長 佐々木 りほ子  
特定非営利活動法人やませデザイン会議 理事 田中 卓  
紫波町企画総務部企画課公民連携室 公民連携専門員 ハワード さおり
- (4) 今年度の開催結果  
第1回  
○開催日 令和2年5月30日  
○議題 第1回審査委員会（補助事業）  
○概要 応募助事業について、書面により、補助事業の選定を行ったもの。  
第2回  
○開催日 令和2年6月7日  
○議題 第2回審査委員会（補助事業、委託事業）  
○概要 応募事業（二次募集）及び首都圏交流会等の委託先について、書面及びプレゼンテーションを踏まえ、受託団体の選定を行ったもの。
- 現地説明会  
○実施日 （第1回）令和2年9月28日、（第2回）令和2年10月8日  
○確認先 （特非）おおふなと市民活動センター、（一社）トナリノ  
（認定特非）遠野山・里・暮らしネットワーク  
○参加委員数 0名（新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、職員のみで行った。）



#### 4. 全体評価

- 1 補助事業においては、各補助事業実施団体が被災者の生活支援やコミュニティ形成支援等について、専門性や絆力を活かして、行政では手の届きにくいきめ細かな取組を実施した。  
受益者アンケートの満足度の問いにおいて、「改善した」又は「どちらかといえば改善した」と回答した受益者の割合は約82%であり、被災者のニーズに合った満足度の高い取組が実施されたことが成果であると評価する。
- 2 首都圏交流会では、東日本大震災津波から10年が経過し震災の風化が進む中、首都圏の企業等に本県の復興状況やNPO等による復興・被災者支援活動を伝えることで支援団体との絆力を強化することができた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、参加団体数は減となったが、オンラインにより開催したことで、首都圏に限らず幅広い地域の企業等が参加した。また、マッチングの達成件数や情報共有等を行える体制の構築等の次年度継続件数においても成果を上げることができたものと評価する。
- 3 本事業等の実施により、復興・被災者支援活動を担うNPO等の運営力・絆力を強化してきたところであるが、未だ運営基盤の弱い団体も多く、引き続きNPO等の自立を促すとともに、企業・団体や市町村など多様な主体との連携や県民の参画により、持続的に復興・被災者支援の取組を進めていく必要がある。